文書記号番号	平成 22 年度 動衛 第22050606 号	分類番号	520101
決裁委任事項番号		保存期間	5 年

接受年月日	平成 22 年 5 月 6 日	文書管理担当者印	記事 ※口蹄疫緊急病性鑑定のため材料到着は 5/3 日 ＊別紙(写)として案１を添付
登録年月日	平成 22 年 5 月 6 日		
起案年月日	平成 22 年 5 月 17 日		
決裁年月日	平成 22 年 5 月 19 日	[redacted]	
施行年月日	平成 22 年 5 月 19 日		
完結年月日	平成 22 年 5 月 19 日		

件名	病性鑑定依頼について（回答）

所長 [redacted]

動物疾病対策センター長 [redacted]

疫学情報室長 [redacted]

疾病診断室長 [redacted]

企画管理部長 [redacted]

審議役 [redacted]

研究調整役 [redacted]

管理課長 [redacted]

庶務チーム長 [redacted]

庶務担当主査 [redacted]

業務推進室長 [redacted]

調査役 [redacted]

企画チーム [redacted]

運営チーム [redacted]

交流チーム [redacted]

伺い

平成２２年５月２日付けをもって、[redacted]から依頼のあったこのことについて、案１～３のとおり施行してよろしいか。

担当係等	交流チーム	起案者	[redacted]	内線番号	7899

農業・食品産業技術総合研究機構起案用紙（甲）

案1

22動衛第22050606号
平成　　年　　月　　日

[redacted]　あて

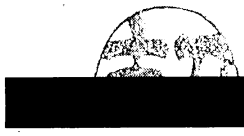
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究所長

病性鑑定回答書

平成２２年５月２日付けをもって依頼のあった病性鑑定について、別紙のとおり回答します。

案2

22動衛第22050606号
平成　年　月　日



あて

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究所長

病性鑑定回答書

このことについて、別紙（写）のとおり回答したのでお知らせします。

案3

22動衛第22050606号
平成　年　月　日

農林水産省
消費・安全局動物衛生課長　殿

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究所長

病性鑑定回答書

このことについて、別紙（写）のとおり回答したのでお知らせします。

別紙

1．動物種

当該牛１頭　黒毛和種（肉用牛），肥育，個体識別番号：[redacted]

2．材料

搬入材料

舌病変部ぬぐい液　１検体（当該牛）、血清　４検体（No.1：当該牛，No.2～4同居牛３頭）

検査材料：

a)当該牛病変部ぬぐい液を遠心し上清としたもの

b)当該牛の血清(No. 1)

c)同居牛の血清(No. 2, 3, 4)

3．検査目的

当該牛１頭が[redacted]等を示し、口蹄疫が疑われたため，農林水産省および[redacted]が病性の決定を行う上の検査を動物衛生研究所海外病研究ユニットにて実施した。

4．検査方法

①RT-PCR

検査材料a)を用い、RNAを抽出し、3D領域（RNA依存RNAポリメラーゼ）のプライマーセットを用い、口蹄疫ウイルスの遺伝子の検索を行った。

3D領域は7血清型間で遺伝子配列が高度に保存されており、本プライマーセットで7血清型が検出可能である。

②抗体ELISA

検査材料b)およびc)を用い、国際標準に準拠した口蹄疫World Reference Laboratory製造の抗体検出競合ELISA（0）を行った。本法は口蹄疫血清型（0）のウイルスに対する抗体を検出可能である。本法では32倍以下を陰性とする。

③ウイルス分離

検査材料a)を用い、BK細胞およびIBRS-2細胞に接種し、CPEの有無を7日間にわたって観察した。

5．検査結果

①RT-PCR

検査材料a)で口蹄疫ウイルス特異的なサイズのバンドは確認されなかった。

今回RT- PCRの結果は陰性であるが、感染初期でウイルスが検出されない可能性も考えられることから、家畜の観察が必要である。

②抗体ELISA

当該牛の血清No. 1（検査材料b)）では45倍、同居牛の血清（検査材料c)）のNo. 2が90倍を示し、他の同居牛の血清（検査材料c)）のNo. 3および4は32倍未満であった。その競合率は低く、本法特有の非特異反応と思われるが、当該牛の症状の変化および疫学的異常が認められた場合は再検査の必要性が考えられる。

③ウイルス分離

BK細胞およびIBRS-2細胞にCPEは観察されなかった。

6. 考　察

[redacted]

(海外病ユニット)

病性鑑定回答書

研究管理監 センター長	チーム長 室　長	ユニット長	担当者	材料到着	22 年 5 月 3 日
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	材料引渡	22 年 5 月 3 日
				検査終了	22 年 5 月14 日

検査依頼機関名：[redacted]

動衛研の文書番号：22動衛第22050606号

1. 動物種

当該牛１頭　　黒毛和種（肉用牛），肥育，個体識別番号[redacted]

2. 材料

搬入材料

舌病変部ぬぐい液　１検体（当該牛）、血清　４検体（No.1：当該牛，No.2～4同居牛３頭）

検査材料：

a) 当該牛病変部ぬぐい液を遠心し上清としたもの

b) 当該牛の血清(No. 1)

c) 同居牛の血清(No. 2, 3, 4)

3. 検査目的

当該牛１頭が[redacted]等を示し、口蹄疫が疑われたため，農林水産省および[redacted]が病性の決定を行う上の検査を動物衛生研究所海外病研究ユニットにて実施した。

4. 検査方法

①RT-PCR

検査材料a)を用い、RNAを抽出し、3D領域（RNA依存RNAポリメラーゼ）のプライマーセットを用い、口蹄疫ウイルスの遺伝子の検索を行った。

3D領域は7血清型間で遺伝子配列が高度に保存されており、本プライマーセットで7血清型が検出可能である。

②抗体ELISA

検査材料b)およびc)を用い、国際標準に準拠した口蹄疫World Reference Laboratory製造の抗体検出競合ELISA（0）を行った。本法は口蹄疫血清型（0）のウイルスに対する抗体を検出可能である。本法では32倍以下を陰性とする。

③ウイルス分離

検査材料a)を用い、BK細胞およびIBRS-2細胞に接種し、CPEの有無を7日間にわたって観察した。

5. 検査結果

①RT-PCR

検査材料a)で口蹄疫ウイルス特異的なサイズのバンドは確認されなかった。

今回RT PCRの結果は陰性であるが、感染初期でウイルスが検出されない可能性も考えられることから、家畜の観察が必要である。

②抗体ELISA

当該牛の血清No. 1 (検査材料b)) では45倍、同居牛の血清 (検査材料c)) のNo. 2が90倍を示し、他の同居牛の血清 (検査材料c)) のNo. 3および4は32未満であった。その競合率は低く、本法特有の非特異反応と思われるが、当該牛の症状の変化および疫学的異常が認められた場合は再検査の必要性が考えられる。

③ウイルス分離

BK細胞およびIBRS-2細胞にCPEは観察されなかった。

6. 考　察

[redacted]

動衛第2205606号
平 22.5.-6 成
動物衛生研究所

（別記様式３）

病 性 鑑 定 依 頼 書

平成２２年　５月　２日

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究所長　殿

依頼機関代表者・氏名 [redacted]

下記のとおり病性鑑定を依頼いたします。

記

１　動物種（品種、性別、個体識別番号等を含む。）
　黒毛和種　肉用牛　肥育 [redacted]
２　鑑定材料（種類、数量を含む。）
（１）舌病変部ぬぐい液　　１検体
（２）血清　　４検体（No.１：当該牛，No.２～４：同房牛）
３　鑑定目的
　※　口蹄疫の診断
４　発生状況
　※　別添のとおり（別記様式２を添付）
５　連絡先
（１）[redacted]
　　電　話：[redacted]　ＦＡＸ：[redacted]
（２）[redacted]
　　電　話：[redacted]
６　その他特記事項

動物衛生研究所
受付
22.5.-6
企画管理部管理課

（別記様式２）

不明疾病、現地調査表（電話報告用）

[redacted]

発生 No. 1

1　報告者

氏名：[redacted]

年月日：平成２２年５月２日１４時４５分

2　家畜所有者

氏名：[redacted]

住所：[redacted]　（電話番号：[redacted]）

畜舎の所在場所（家畜所有者の住所と異なる場合）

住所：[redacted]

3　現地調査の時間：平成２２年５月２日　１５時４０分

4　飼養頭数：黒毛和種（肉用牛），肥育　１７０頭　　合計１７０頭

（乳牛、肉牛、豚等の畜種別、繁殖、育成又は肥育等の用途別に報告する）

5　病畜頭数（畜種別、用途別、個体識別番号等）：１頭

黒毛和種（肉用牛），肥育，個体識別番号：[redacted]

6　病歴、症状、病変の大要：

4/11 [redacted]

4/24　農場へ搬入

5/2 [redacted]

7　診断：

8　病鑑材料の採取※：ウイルス用（部位，検体数）

（１）舌病変部ぬぐい液　　１検体（当該牛）

（２）血清　　４検体（No.1：当該牛，No.2～4 同居牛３頭）

9　当面の措置状況：

出入口の閉鎖、家畜の繋留、消毒槽の設置、排水口閉鎖、その他（　　）

10　過去21日間の当該農場における家畜の移動：

移出 [redacted] 移動先 [redacted]

移入 [redacted] 移動先 [redacted]

11　給与飼料の種類、産地：

[redacted]

12　残さ物給与の有無、内容：[redacted]

13　最近の海外渡航者の有無：[redacted]

〃　海外からの物品の有無：[redacted]

14　過去7日間に接触した者の有無：立ち入った獣医師、家畜人工授精師、削蹄師、家畜商等

[redacted]

15　畜主の管理する他の畜舎：（所在地、畜種用途別飼養頭数）

[redacted]

16　付近の畜産農家の有無：[redacted]

17　生乳：集乳所の所在地　　出荷先

[redacted]

18　発生の原因※：

19　殺処分予定頭数※：

死体処分方法：焼却、埋却、その他（　　）

20　その他参考となる事項：

都道府県畜産課からの指示事項：

（注）診断が陰性の場合は、※印は記入の必要なし

[redacted]

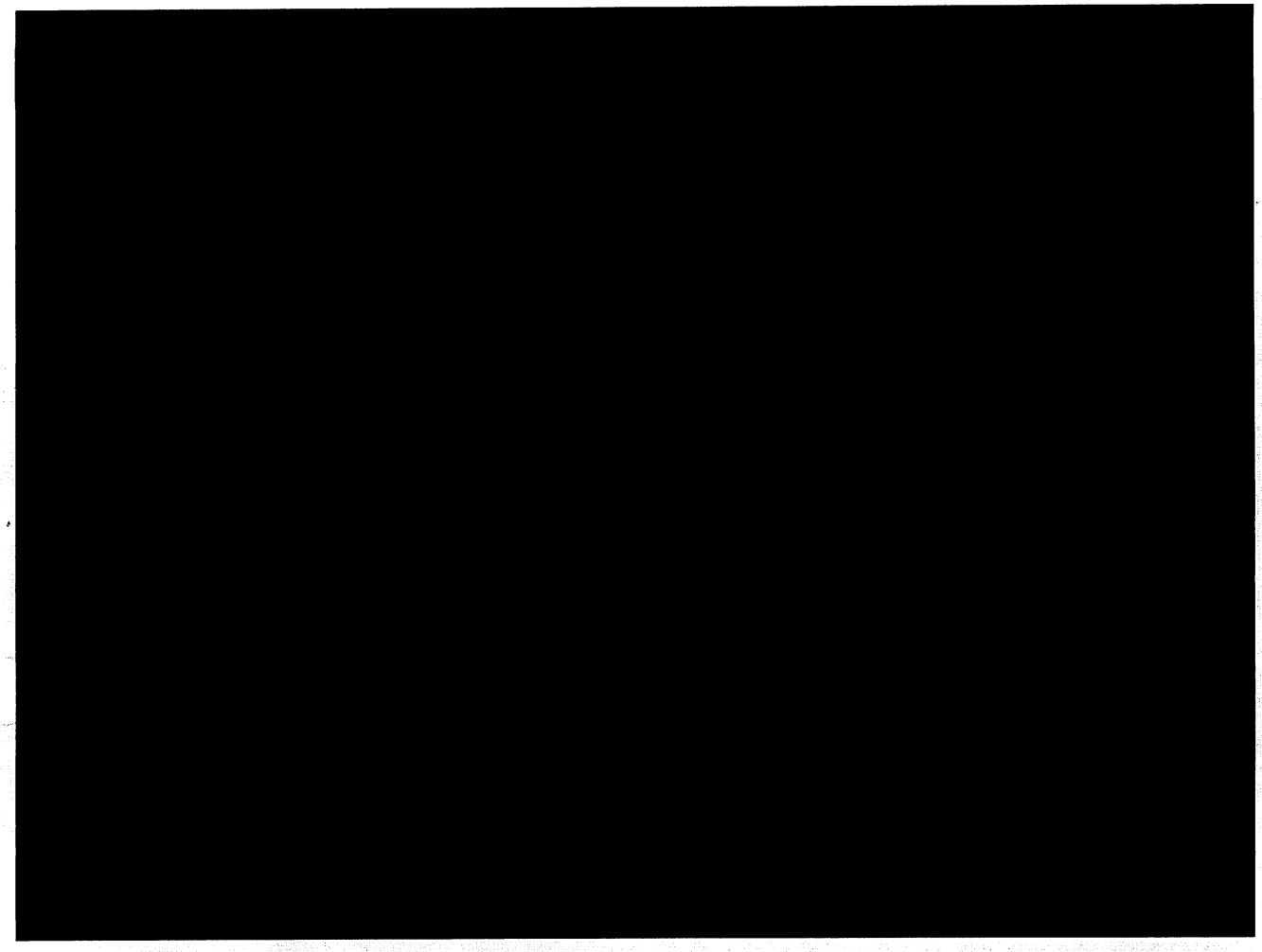
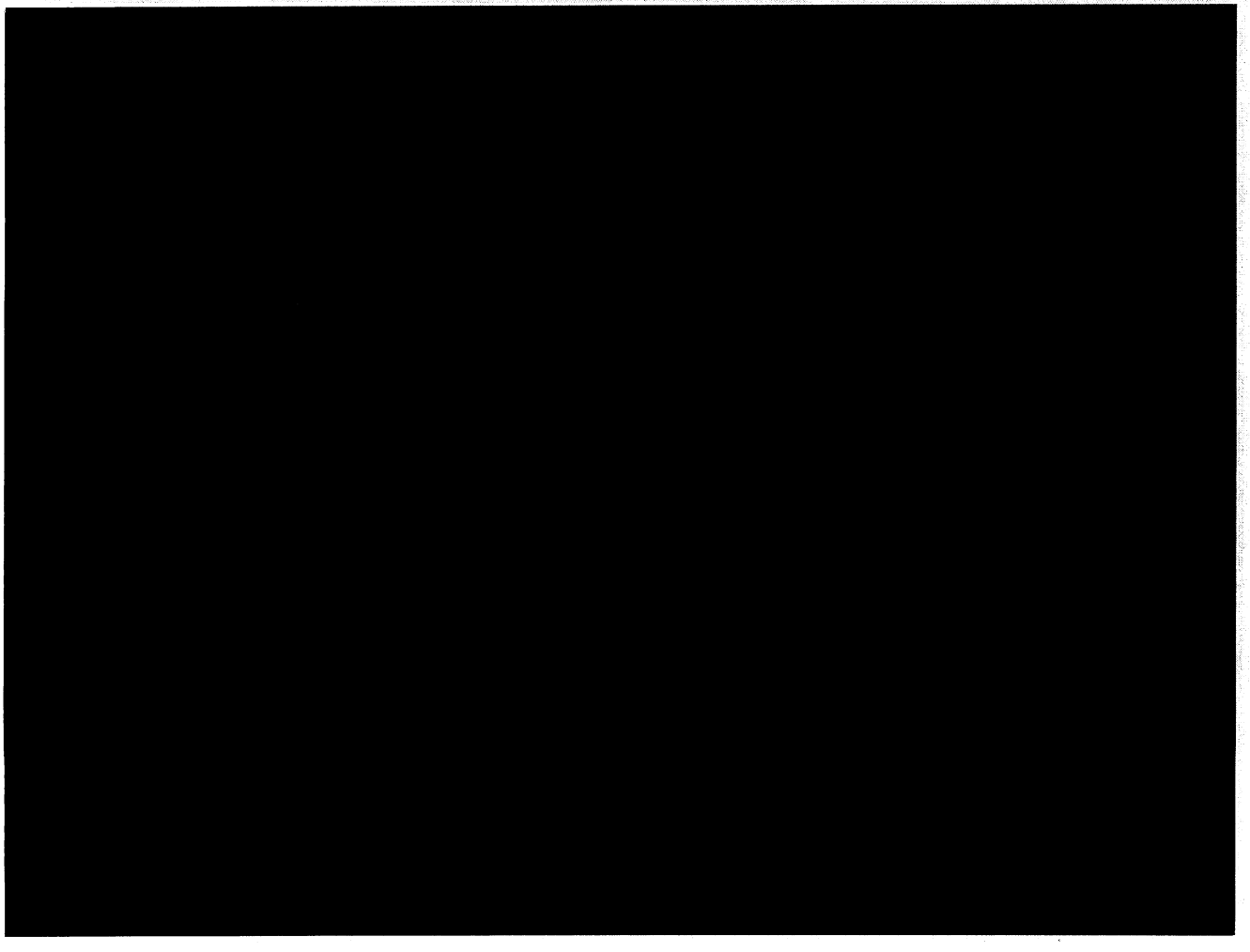
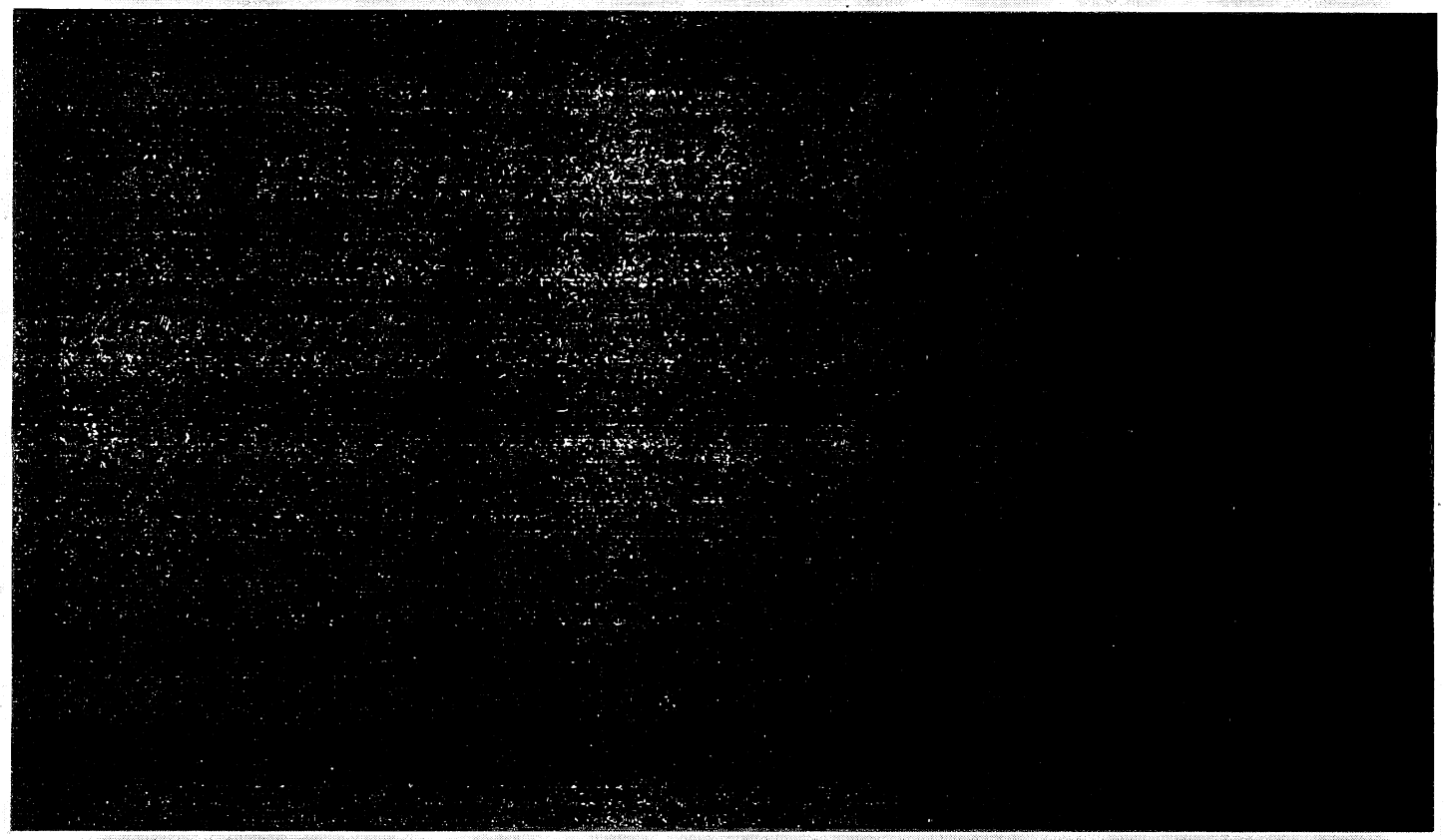
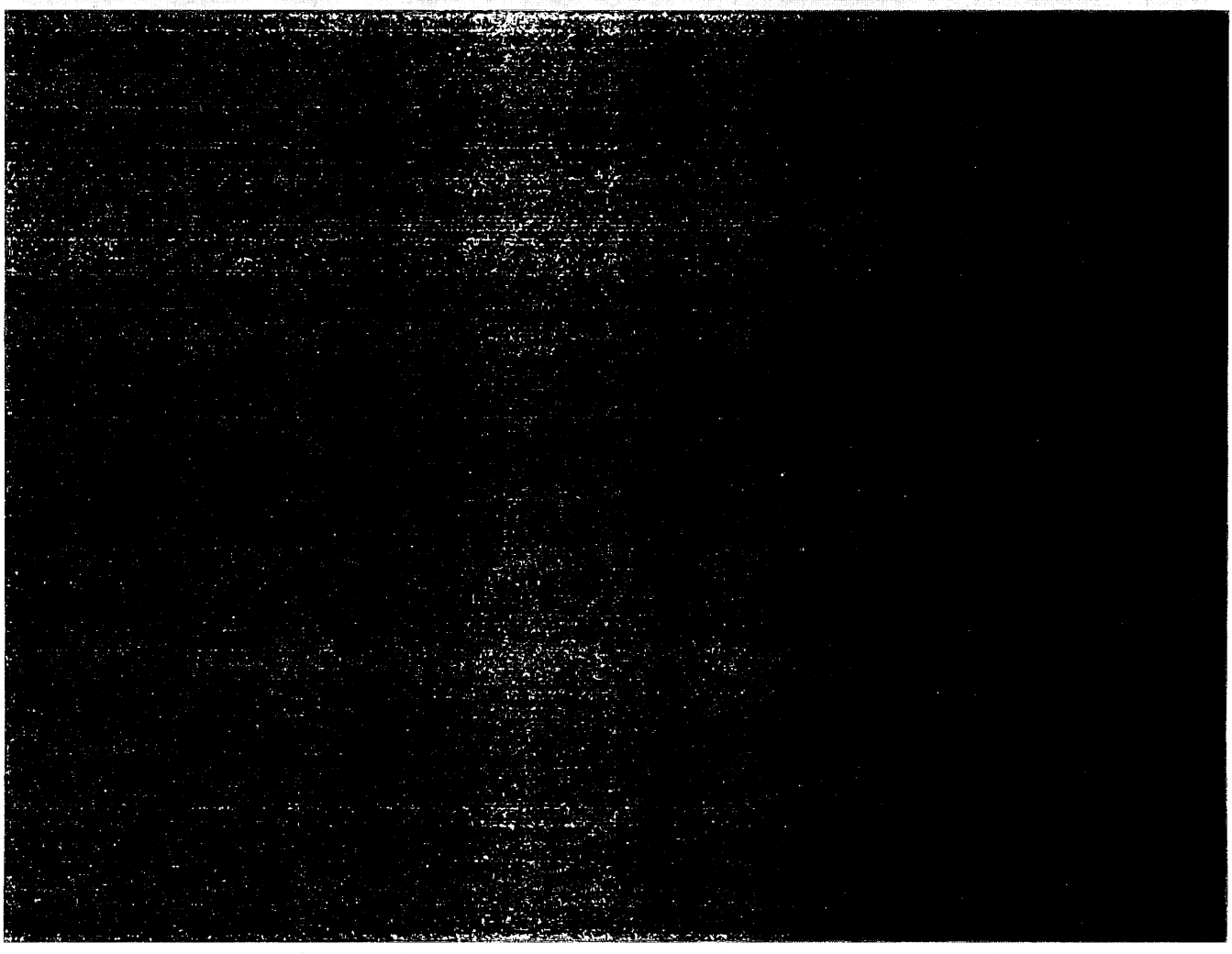
[redacted]

1　区域内農場

（1）１０ｋｍ以内

[redacted]

（2）１０－２０Ｋｍ以内

[redacted]

[redacted]